

情報を仕入れると人の気持ちも、行動も変わると思います。そういう意味で、市報は暮らしに便利な情報源なので、毎月最初から最後まで楽しみに読んでいます。誌面に知人を見つけると、ほっとしますね。多久を元気にしていこうと始めた「もりあがらナイト」も市報に載せてもらい、年々定着して来たように思います。

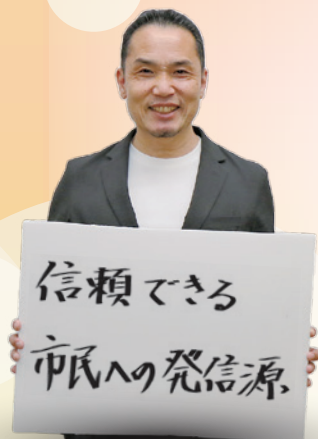


毎月自宅に届く市報を読むことは習慣になっていて、レシピコーナーや教育長コラムなど、毎月楽しみにしているコーナーもあります。新しい多久の話題を知るには、市報を見るのが最適です。フリーペーパーを読むような感覚で、イベントを始めた人の思いや、お店のオープン情報といった、新しい情報を得るために活用しています。



【slow café】

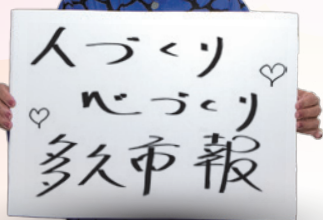
はやしぐちとしゆき やよい
オーナー 林口寿之さん・弥生さん



【西九州大学 短期大学部】

うしまるかずと
教授 牛丸和人さん

長年、教壇に立ちながらアート活動をしています。私の個展やイベントなどを市報で知って訪れてくださる人も増えてきたので、とても助けになっています。市報の最大のメリットは、市内全戸に大切な情報が届くことです。また、市が責任を持って発行している、信頼できる情報発信源だということでも安心感があります。



【CSOマタキタクル】

なんり こ
会長 南里カヅ子さん

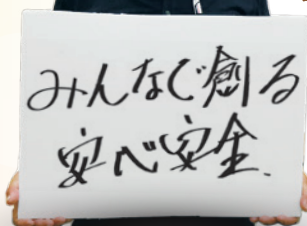


市報に掲載されると、家族や友人以外からも「頑張れ！」と声をかけていただき、とても励みになりました。中学1年生から10年連続で出場している県内一周駅伝では、市民のみなさんからの声援が追い風になっています。今後はニューイヤー駅伝にも連続出場し、多久の子どもたちが陸上をしたいと思うような走りを見せたいです！



【戸上電機製作所 陸上競技部】

いずも かずま
出雲一真さん



【多久市消防団】

じんのうち しげかず
団長 陣内成和さん

消防団は職業ではないので、団員の地域に貢献したいという気持ちがあってこそ成り立つものです。だからこそ市報に取り上げていただくと、多くの人に活動が伝わるので、大変嬉しく思います。掲載後は電話をいただくなど、反響も大きいです。また、市報は変わりゆく多久のまちを記録した、歴史そのものだと思います。

創刊700号記念に寄せて

市報は広く情報を伝えるための媒体ですが、市の出来事を振り返るためのドキュメントでもあり、市民のみなさんの活躍を伝えるステージでもあると考えています。市の情報を記録し、市民のみなさんに寄り添った情報をわかりやすく、定期的に発信することが、「多久市報」の役割です。

市報にはさまざまな世代に必要な情報が詰まっており、ご自身のためだけではなく、ご家族のための情報収集にも役立つと思います。また、市民のみなさんの活動を取り上げることで、その活動を市全体に知っていただき、より活発なまちづくりの動きにもつながるとも考えています。

私も市長コラムを通して新しい情報や感動を共有したいと思い、筆を執っています。市報が情報発信の核となり、市民の皆さまに活用していただけるよう、さらなる進化を目指します。



【多久市長】

よこ お としひこ
横尾俊彦

